

## 研究・調査報告書

報告書番号 255	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Differential effects of moderate or heavy alcohol consumption on circulating adhesion molecule levels. 中等度と高度のアルコール消費は循環系接着分子レベルに異なる影響を与える	
<b>執筆者</b> Sacanella E, Badia E, Nicolas JM, Fernandez-Sola J, Antunez E, Urbano-Marquez A, Estruch R.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Thromb Haemost 88(1):52-55 (2002)	
<b>キーワード</b> アルコール消費、消費レベル、接着分子、ICAM、VCAM、アテローム性動脈硬化症	
<b>要旨</b> <p>疫学的研究は、高度ではない中等度のアルコール消費は冠動脈性心臓病を阻止することを示している。我々は初期アテローム性動脈硬化症の病因に関係している接着分子種の血清レベルとアルコール消費との関連について検討した。同程度の心臓脈管系疾患危険要因をもった、見かけ上健康な 100 人の男性はエタノール消費量によって 4 群に分けられた。中等度(20-40 g/day)のアルコール消費者は、細胞内接着分子-1(ICAM-1)と血管細胞接着分子-1(VCAM-1)の血清レベルが禁酒者よりも低く(p&lt;0.05)、高度飲酒者よりも ICAM-1、VCAM-1、そして E-セレクトリン血清レベルが低かった(p=0.01)。高度飲酒者では禁酒者よりも ICAM-1、E-セレクトリンレベルが有意に高かった(p&lt;0.001)。我々は、中等度飲酒者は、禁酒者や高度飲酒者と比較して可溶性内皮系接着分子レベルが有意に低下していること、そして、このことが中等度飲酒のアテローム性動脈硬化症に対する阻止効果に貢献していると結論する。</p>	